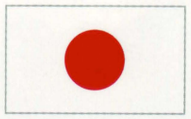
世界が忘れてはいけない島がある。

日本から見た「硫黄島」

Letters from Iwo Jima

硫黄島からの手紙



2006.12.9

アカデミー賞®受賞　クリント・イーストウッド監督

日米双方の視点から描く映画史上初の「硫黄島」2部作。

©2006 WARNER BROS. ENTERTAINMENT INC. and DREAMWORKS LLC All Rights Reserved

www.iwojima-movies.jp

世界が忘れてはいけない島がある。

アメリカから見た「硫黄島」

Flags of Our Fathers

父親たちの星条旗

2006.10.28

アカデミー賞®受賞　クリント・イーストウッド監督

日米双方の視点から描く映画史上初の「硫黄島」2部作。

©2006 WARNER BROS. ENTERTAINMENT INC. and DREAMWORKS LLC All Rights Reserved

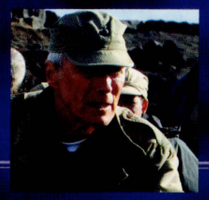
www.iwojima-movies.jp

A Clint Eastwood FILM

日本の皆さまへ

61年前、日米両軍は硫黄島で戦いました。
何万もの若い日本兵、アメリカ兵が命を落としたこの過酷な戦闘は、
それ以来ずっと両国の文化の中で人々の心に訴えかけてきました。
この戦いに興味を抱いた私は、硫黄島の防衛の先頭に立った指揮官、
栗林忠道中将の存在を知りました。彼は想像力、独創性、そして機知に富んだ人物でした。
私はまた、栗林中将が率いた若い兵士たち、そして、
敵対するにもかかわらず両軍の若者たちに共通して見られた姿勢にもとても興味をもちました。
そしてすぐに、これをふたつのプロジェクトにしなければと悟ったのです。
私は現在、『硫黄島からの手紙』『父親たちの星条旗』という、
硫黄島を描いた映画を2本、監督しています。
まず、アメリカ側の視点から描く『父親たちの星条旗』は、硫黄島の戦いだけでなく、
帰国した兵士たち、特に、星条旗を掲げる有名な写真に載った兵士のうち、
生還した3人の若者たちがあの死闘から受けた影響を追っています。
彼らは戦時公債用の資金集めのために都合よく利用されました。
戦闘そのものと、帰国後の宣伝活動の両方が彼らの心を深く傷つけたのです。
そして日本側。
若い日本兵たちは島へ送られたとき、十中八九、生きては戻れないことを知っていました。
彼らの生きざまは歴史の中で描かれ、語られるにふさわしいものがあります。
私は、日本だけでなく世界中の人々に彼らがどんな人間であったかをぜひ知ってほしいのです。
『硫黄島からの手紙』では、彼らの目を通してみたあの戦いが、
どんなものであったかを描ければと思っています。
昨年4月、私は硫黄島を訪れる機会を得ました。
あの戦いでは、両国の多くの母親が息子を失っています。
その場所を実際に歩いたことは、とても感動的な経験となりました。
そして今年、私は再びあの島を訪れ、2本の映画のために数シーンを撮影したのです。
私が観て育った戦争映画の多くは、どちらかが正義で、どちらかが悪だと描いていました。
しかし、人生も戦争も、そういうものではないのです。
私の2本の映画も勝ち負けを描いたものではありません。
戦争が人間に与える影響、ほんとうならもっと生きられたであろう人々に与えた影響を描いています。
どちらの側であっても、戦争で命を落とした人々は敬意を受けるに余りある存在です。
だから、この2本の映画は彼らに対する私のトリビュートなのです。
日米双方の側の物語を伝える2本の映画を通して、両国が共有する、
あの深く心に刻まれた時代を、
新たな視点で見ることができれば幸いです。

クリント・イーストウッド



監督クリント・イーストウッド × 製作スティーブン・スピルバーグ

ふたつの「硫黄島」、連続公開。

――日米双方の視点から描く映画史上初の２部作――

61年間ずっと描かれる時を待っていた、日本とアメリカ、それぞれの「硫黄島」――。

世界が記憶にとどめる日本の島がある。私たちこそが忘れてはならないひとつの島がここにある――。太平洋戦争激戦の地「硫黄島」。
終戦から61年が過ぎたいま、日本とアメリカの双方から、この島の封印が解かれようとしている。ひとつの島をめぐって描かれる映画史上かつて例のない２部作。アメリカ側の視点から描いた『父親たちの星条旗』、日本側の視点から描いた『硫黄島からの手紙』。ふたつの「硫黄島」に出合うことで初めて見えてくる真実がそこにある。いままで知らなかった事実、知らなかった人々、知らなかった思い……。「硫黄島」は、語られるべき時を待っていた。 2006年10月、そして12月。61年目の今年、ふたつの「硫黄島」が、この島の真実を描き出す。

名匠クリント・イーストウッドの決意が突き動かした２部作敢行の大プロジェクト

両作にわたって監督を務めるのは、２度のアカデミー監督賞に輝く名匠クリント・イーストウッド。製作には、やはり２度のオスカー受賞歴を誇るスティーブン・スピルバークがあたるという他では考えられない異例の布陣。並々ならぬ決意で挑む２部作敢行の大プロジェクト。イーストウッドの真摯な思いこそがこの大プロジェクトを突き動かした。

渡辺謙、二宮和也、中村獅童らが集結、日本の「硫黄島」に集う精鋭の俳優陣。

日本側の『硫黄島からの手紙』には、『ラスト サムライ』のアカデミー賞ノミネート俳優・渡辺謙をはじめ、演技力には定評のある「嵐」の二宮和也、歌舞伎界のみならず映画界でも躍進を続ける『男たちの大和／YAMATO』の中村獅童、他に代えがたい存在感を放つ『半落ち』の伊原剛志、そして『パッチギ！』『ハチミツとクローバー』での活躍がめざましい加瀬亮ら、新鋭からベテランに至るまで実力派を余すところなく揃えた日本精鋭の俳優陣が集結。この先は二度とないかもしれない、このプロジェクトだからこその顔合わせが実現した。

日本とアメリカ、それぞれに知られざるドラマがあった

『父親たちの星条旗』

戦場に星条旗を打ち立てる米軍兵士を写した一枚の写真。誰もがどこかで一度は目にしたことがあるに違いない世界で最も有名な戦争写真。それが写された場所こそ、硫黄島だった。勝利のシンボルともいうべきこの一枚の写真によって、英雄に祭り上げられた若きアメリカ兵たちが、その後歩んだ人生とは?

『硫黄島からの手紙』

そして、５日で落ちるとされた硫黄島戦を、36日間にも及ぶ死闘へと変貌させた日本軍。この時代に異彩を放ったアメリカ帰りの指揮官、栗林中将のもと、寄せ集めといわれた硫黄島の日本兵は、最後までどう生き、どう戦ったのか?

日米双方から見つめることで解き明かされていく61年の封印。それぞれの「硫黄島」が、ふたつの国の気持ちが、61年の時を経て、いま確かに通いあう。

硫黄島の戦いとは―
1945年２月16日から約１ヶ月もの間繰り広げられた日米の攻防戦。
太平洋戦争(第２次世界大戦)末期の激戦であり、硫黄島は、太平洋戦争において
米軍の死傷者数が日本軍のそれを上回った唯一の戦場となった。

www.iwojima-movies.jp

アメリカから見た「硫黄島」
Flags of Our Fathers
父親たちの星条旗
10月28日公開

日本から見た「硫黄島」
Letters from Iwo Jima
硫黄島からの手紙
12月9日公開

父親たちの星条旗 10月28日(土)ロードショー
硫黄島からの手紙 12月9日(土)ロードショー

特別鑑賞券¥1,300 2作品特別鑑賞券¥2,600発売中!
※一部劇場を除く

丸の内ピカデリー1 03(3201)2881	渋谷ピカデリー 03(3770)1990	新宿ミラノ2 03(3202)1189	池袋シネマサンシャイン 03(3982)6101	上野東急2 03(3831)6620	
MOVIX亀有 03(5629)7200	109シネマズ木場 03(5683)0109	T・ジョイ大泉 03(5933)0147	品川プリンスシネマ 03(5421)1113	シネマメディアージュ 03(5531)7878	
吉祥寺セントラル 0422(48)6521	MOVIX昭島 042(500)5900	109シネマズグランベリーモール 0570(012)109	ムービル 045(311)0330	MOVIX本牧 045(625)4766	
109シネマズMM横浜 045(664)0109	109シネマズ港北 045(948)5151	9月オープン 109シネマズ川崎 109cinemas.net	川崎チネチッタ 044(223)3190	シネマックス千葉 043(202)0088	

wb@wbfp.jp
携帯公式サイト ムービー大量配信中!
QRコードなら入力不要で簡単アクセス!